

いくつかの調査論、教育の心理学的、生理学的、社会学的、民俗学的、法学的、歴史学的、観測、測定、調査のための、調査論

中内敏夫

お茶の水女子大学文教育学部教育学科

以下の提案は、危機は問題の所在を認識しおえたとき、すでに半ば以上解決されているとの判断に基づいておこなわれる。

①教育(実践)は人間(集団)の発達課題の解決学である。教育学の課題は、この課題を明らかにし、その解決をまもって可能にしている、あるいは現実に疎害している条件を明らかにすることによってこの解決過程に参加することである。

②この課題の発見、条件の解明にあたっては(Ⅰ)演繹的方法(Ⅱ)観測・調査による方法の2つがあるが、(Ⅱ)に関していえばそこには次のような欠陥がある。

(a)課題は全人的なものであり、その観測・調査の方法は各側面バラバラで統合原理を自力で提供できない。

(b)課題の発見と条件の解明をかたよりにしにおこなうためには、この観測・調査は課題の担い手がより解決者である被調査者本人を平等にあつかわねばならないのに現行方法はこれを保証できない。

(c)課題と条件は表層・深層をもつた両者は一致しないのに、現行の方法は全層を統一的にとらえていない。

③デモグラフィカルな調査は、この欠陥を比較的手ぬがれている。なぜかというに、

(a)人口行動の事実はオーストリアに単層ではなく「存在と価値のすべてのオーガン」(Vialataux)を含み、それゆえ人口動態誌は人事に関する諸統計の「共通の貯水池」(Guillard)であるからであり、かつ人間の生涯のすべてのふしづしについての知識を

應のものとして示すことが出来る。

(b)デモグラフィカルな知識は本人を平等にあつかわる。

(c)人口行動に関する知識は境界行動に関する知識であるから表層・深層両面を測定・観測できる知識である。

④すでに以上の文で明らかにするように、デモグラフィカルな調査は意識の表層で多くは互前提に信じられ使用されている既知の概念やパラダイムそのものを相対化しその再検討を可能にする力を持っている。しかし、それは、ついで提起された〈問題意識〉を新しいスタート点にしてもういくつかの観測・測定調査を可能にする力をもっている。しかし、今日、一歩に教養的形而上学、他方に経験主義的実証主義が支配して〈問題の所在〉をわかりにくくしている状況の中で、かつて天才のひらめきによっていたこの部分を明らかにするもういくつかの実証的知識の役割は、必ずしも軽くない。

⑤教育に関する問題の提起とその解決論を人口行動論と不離一体のものとして提出した最初の文献は、アラトンの「国家論」である。ブルジョワ社会が、この古代学の遺産をどう処理したかが問われる。